

今の熊本のすがた

引き続きの応援をお願いいたします



<p>人口(平成30年9月1日現在)</p> <p>1,756,861人</p>	<p>平成28年熊本地震では、県人口の約83%が震度6弱以上の地震に見舞われ、10%以上が避難しました(車中泊を除く)</p>		
<p>高齢化率 (高齢者関係資料集/平成30年8月)</p> <p>30.1% (全国23位) 65歳以上人口の割合</p>	<p>仮設住宅入居者数 (平成30年9月末現在)</p> <p>24,580人 (最大時47,800人)</p>	<p>家屋被害</p> <p>約19.7万棟 (一部損壊以上)</p>	<p>熊本県の 熊本地震関係予算額</p> <p>計8,579億円</p>
<p>観光客数 (熊本県観光統計)</p> <p>H27 5,972万人 H28 4,854万人 (約2割減)</p> <p>平成30年1~3月の宿泊客数は、平成28年1~3月(地震前)の84.8%</p>	<p>災害公営住宅整備戸数</p> <p>1,733戸 (今後278戸の整備必要)</p>	<p>県管理道路全面通行止</p> <p>115か所(最大)</p>	<p>H28 5,323億円 H29 1,925億円 H30 1,330億円 (9月補正後)</p>

発行 熊本県総務部市町村・税務局税務課

〒862-8570(県庁専用郵便番号) 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号(熊本県庁本館3階)
電話 096-333-2098 メール k-furusato-n@pref.kumamoto.lg.jp

©2010熊本県くまモン

発行者:熊本県
所属:税務課
発行年度:平成30年度



平成29年度くまもとふるさと応援寄附金 使途事業報告書



 熊本県

熊本を応援してくださっている皆様へ

「ふるさとくまもと応援寄附金」をお寄せくださり、誠にありがとうございました。

平成28年熊本地震から2年半が経過しましたが、その間、

たくさんのご支援を継続的にいただいておりますことに、改めてお礼申し上げます。

皆さまからの温かいご寄附は、熊本地震の被災者の生活再建のための事業を筆頭に、

子育て支援や高齢者が安心して暮らせるまちづくりに繋がる事業など、

熊本が地震を乗り越え、創造的復興を遂げられるような施策に、

大切に活用させていただいています。

この冊子では、その代表的な取組みについてご報告させていただきます。

皆様からのご支援を力に変え、これからも、

笑顔があふれ、夢と希望に満ちた熊本をつくり上げるために全力で取り組んで参ります。

引き続き、温かい応援を賜りますようお願い申し上げます。



平成30年11月

熊本県知事 蒲島 郁夫

平成29年4月から平成30年3月までの間に寄せられた
「ふるさとくまもと応援寄附金」

5,007件 約7億4千万円

ふるさとくまもとづくり応援分

- 教育・文化の振興
- 保健・医療・福祉の充実
- 地域活性化
- 産業振興
- 安全で安心な県民生活の確保
- 環境の保全・再生

熊本地震の復旧・復興支援

くまモン応援分

「100年後も愛されるくまモン」を目指すため、くまモンの活動に活用します。



国際スポーツ大会応援分

2019年に熊本で開催される

「女子ハンドボール世界選手権大会」や
「ラグビーワールドカップ」等に役立てます。



夢教育応援分

子どもたちの教育に役立てます。

また、応援する県内高等学校・特別支援学校
(高等部)、その他団体等を指定されると
寄附額の半額を交付します。



寄せられた寄附金で実施する事業(目次)

これまでにいただいた寄附金の一部を
次の事業に活用させていただきます

ふるさとくまもとづくり応援分

◇熊本地震に関する事業

- 01 被災した方への弔慰金等支給を支援しています ……3
- 02 被災市町村の職員確保を支援しています
- 03 被災して生活が困窮している方を支援しています ……4
- 04 被害が大きかった地域のコミュニティ再生を支援しています
- 05 震災復興のための交流促進を支援しています
- 06 阿蘇くまもと空港を復興しています ……5
- 07 教育旅行を目的とした修学旅行等の回復に取り組んでいます
- 08 農業現場の労働力不足の解消に取り組んでいます
- 09 被災した農地や施設の復旧を支援しています ……6
- 10 県産木材を使った住宅再建を推進しています
- 11 地震後に確認された危険箇所の調査等を実施します
- 12 「土砂災害特別警戒区域」からの移転を支援しています ……7
- 13 熊本地震の記録をインターネット上で発信しています
- 14 被災した私立学校の生徒・県立大学生の授業料等を減免しています
- 15 災害時に学校教育復旧を支援するチームを派遣しています ……8
- 16 地震後の心のケアが必要な児童生徒をサポートしています

◇熊本地震以外の事業

- 17 世界文化遺産に登録された資産の魅力をPRします ……9
- 18 障がいのある幼児を受け入れる私立幼稚園等を支援しています
- 19 犬猫の殺処分ゼロを目指す取組みを進めています ……10
- 20 外来植物を除去し、河川環境を保護します
- 21 高齢者等を犯罪から守るため個別訪問等を行っています
- 22 生活上のトラブルに関する生活安全相談を行っています ……11
- 23 経済的な事情で大学等への進学が困難な生徒を支援しています
- 24 高校再編により通学が困難になった生徒を支援しています
- 25 小学校5年生を環境教育のために水俣市に派遣しています ……12
- 26 医療的ケアが必要な児童生徒に看護師を配置しています
- 27 教職員の発達障がいへの対応力を高めています

くまモン応援分

国際スポーツ大会応援分

夢教育応援分

……………13
……………13
……………14



ふるさと くまもとづくり 応援分

熊本地震に関する事業

01 被災した方への 弔慰金等支給を 支援しています



災害により死亡した方の遺族、精神・身体に著しい障がいを受けた方に対して、市町村が災害弔慰金(最大500万円)・災害障害見舞金(最大250万円)を支給しますが、その経費の一部を県が市町村に補助しています。
平成29年度は36人の方に支給されました。

災害弔慰金事業
寄附金充当額 30,500千円

02 被災市町村の 職員確保を 支援しています



熊本地震の被災市町村では、地震によって増加した業務に対する職員数が不足しています。県では、被災市町村職員採用試験(任期付)や、全国自治体を訪問しての派遣要請など、復旧・復興に向けた支援を行っています。

熊本地震被災市町村支援事業
寄附金充当額 6,000千円

03 被災して生活が困窮している方を 支援しています



生活困窮者自立支援プラン推進事業
寄附金充当額 10,000千円

生活困窮に陥った方に対して、就労に向けた基礎能力を形成するための支援、緊急的な宿泊場所(シェルター)と衣食等の提供、家計管理など経済的問題の解決支援、子ども達の学習支援を行っています。熊本地震対策分として、シェルター2室、家計相談員4名、子ども50名分の学びの場を準備しました。

05 震災復興のための交流促進を支援しています



地域の魅力を活かして県内外から人を呼び込み、震災による交流人口減少に歯止めをかける取組みを支援します。
平成29年度は13の取組みに補助を行いました。中でも、熊本出身の映画監督・行定勲さんを迎えての「くまもと復興映画祭」では、開催3日間で13,000人の入場者がありました。

地域づくりチャレンジ推進事業
寄附金充当額 30,000千円

04 被害が大きかった地域のコミュニティ 再生を支援しています



立野地区地域再生等支援事業
寄附金充当額 1,000千円

熊本地震の被害が大きかった南阿蘇村立野地区は、平成29年10月まで、全ての住民が地区外への避難を余儀なくされました。また、東海大学阿蘇キャンパスがある同村黒川地区は多くの住居が全壊し、学生約800人が暮らしていた「学生村」の姿はなくなりました。
これらの地域のコミュニティ再生に向けた計画を策定しています。

06 阿蘇くまもと空港を復興しています



阿蘇くまもと空港 創造的復興推進事業
寄附金充当額 20,000千円

熊本地震で大きな被害を受けた阿蘇くまもと空港では、コンセッション方式の導入(民間委託)により、災害に強い新たな国内線と国際線が一体となったターミナルビルを整備することとしています。空港のポテンシャルを最大限に引き出すため、十分な課題整理を行い、空港周辺地域の活性化につなげていきます。

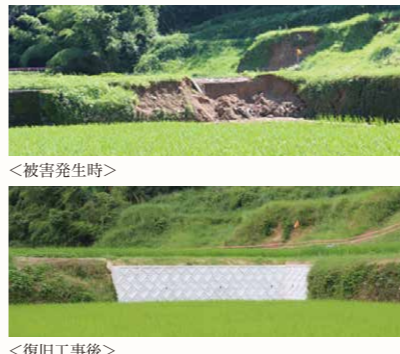
07 教育旅行を目的とした修学旅行等の回復に取り組んでいます



「がんばろう!熊本」観光復興事業のうち
「熊本型教育旅行の再構築事業」
寄附金充当額 10,000千円

熊本地震後に激減した教育旅行を目的とした来県者数の回復を図り、ひいては観光産業の復興につなげるため、防災・減災教育をテーマとした教育旅行プログラムを作成しています。特に被害の大きかった益城町・南阿蘇村において、ガイド研修を行うなど、着々と受入れ準備を進めています。

09 被災した農地や施設の復旧を支援しています



<被害発生時>

<復旧工事後>

団体営農地等災害復旧事業費
寄附金充当額 130,000千円

熊本地震等により、田畑などの農地が崩れたり、農業に必要な用水路・排水路などの農業用施設が壊れたりしています。被災前と同じように農業に従事できるよう、市町村等が行う復旧工事を支援しています。

10 県産木材を使った住宅再建を推進しています



くまもと県産木造住宅づくり
復興推進事業
寄附金充当額 37,000千円

熊本地震により住家約18.9万棟が被災しましたが、住宅を再建する場合に県産木造住宅が選択されるよう、品質の確かな県産木材と庭木の提供を行っています。木材を積極的に活用することで健全な森林が保たれるなど、環境保全にも役立ちます。



08 農業現場の労働力不足の解消に取り組んでいます



熊本県の農業現場では、熊本地震を契機に労働力が不足しています。農業生産の維持強化を目指し、農業団体と協力した人材のマッチングや、子育て中の女性と連携した労働力確保の取組みを支援するほか、少人数での作業を可能とする効率化の取組みの検討も進めています。

熊本地震復興労働力確保対策事業
寄附金充当額 14,000千円



11 地震後に確認された危険箇所の調査等を実施します



熊本県内では、約21,000か所の土砂災害警戒区域等を指定してきましたが、熊本地震後、新たに6,221か所の危険箇所が確認されました。今後、これらの基礎調査と区域指定を行い、インターネット上に地図情報を公表することにより、防災意識向上や防災活動に活用します。

土砂災害警戒避難対策事業
寄附金充当額 34,000千円

12 「土砂災害特別警戒区域」からの移転を支援しています



土砂災害特別警戒区域、いわゆるレッドゾーンにお住まいの方々の安全な区域への移転を支援するため、移転先の住宅の購入費などを最高300万円まで補助しています。平成29年度末までに44件の移転が決定しました。

危険地区からの移転促進事業
寄附金充当額 37,000千円

13 熊本地震の記録をインターネット上で発信しています



熊本地震の教訓等を国民全体で共有し、今後の防災体制の強化にいかすため、行政機関や企業・団体から被害状況、復旧・復興などに関する資料を収集し、平成29年4月から「熊本地震デジタルアーカイブ」サイトで公開しています(平成29年度末現在約2万点公開)。

熊本地震デジタルアーカイブ事業
寄附金充当額 120,000千円

14 被災した私立学校の生徒・県立大学生の授業料等を減免しています



被災した私立中学校・高等学校・専修学校・各種学校の生徒及び熊本県立大学の学生の授業料等の減免などを行っています。

被災生徒授業料等減免補助事業
公立大学法人支援事業のうち熊本地震授業料減免
寄附金充当額 計155,000千円

15 災害時に学校教育復旧を支援するチームを派遣しています



災害時学校支援チーム派遣事業
寄附金充当額 2,000千円

熊本地震の経験・教訓を活かして、被災地の学校教育の早期復旧を支援するため、災害対応の専門的な研修を受講した教職員による「熊本県学校支援チーム」を平成30年度に発足させました。平成30年6月の大阪府北部地震や平成30年7月豪雨の被災地にも派遣し、支援活動を行っています。

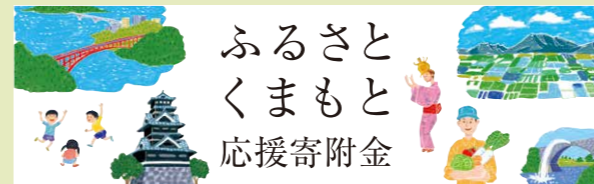
16 地震後の心のケアが必要な児童生徒をサポートしています



小・中学校
スクールカウンセラー等派遣事業
寄附金充当額 2,000千円

平成30年5月の時点で、熊本地震により心のケアが必要となった児童生徒は、公立小中学校で1,931人でした。特に震源に近い上益城地域の増加が著しく、平成30年3月調査の約2倍となりました。そのため、専門的知識・技能を有する専門家の配置をさらに充実させ、児童生徒の実態に応じた対策を講じて、震災前の生活への復帰を支援しています。

「ふるさとくまもと応援寄附金(熊本県へのふるさと納税)」について



熊本県ホームページ <http://www.pref.kumamoto.jp/>

「ふるさとくまもと」で検索

※インターネットからも寄附をいただけます(「ふるさとチョイス」)
<https://www.furusato-tax.jp/city/product/43000>





ふるさと くまもとづくり 応援分

熊本地震以外の事業

17 世界文化遺産に 登録された資産の 魅力をPRします



「天草の崎津集落」を含む「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が平成30年7月に世界文化遺産に登録されました。

PRイベントを開催するなど、世界文化遺産の「万田坑(荒尾市)」「三角西港(宇城市)」や、登録を目指す「阿蘇」を含め、県内にある遺産の魅力を国内外に発信していきます。

世界文化遺産登録推進事業
寄附金充当額 40,000千円

18 障がいのある幼児を 受け入れる私立幼稚園等 を支援しています



私立幼稚園等において、障がいのある幼児の受け入れを支援するため、専任教諭の配置や支援に必要な教材の導入費用などに対し、支援を行っています。

平成29年度は、242人の幼児の受入れが支援の対象となりました。

私立幼稚園等特別支援教育経費補助
寄附金充当額 80,000千円

19 犬猫の殺処分ゼロを目指す 取組みを進めています



未来を担う子ども達等への動物愛護精神の涵養、保護された犬猫が譲渡されやすくするためのしつけやトリミング、譲渡会の開催、犬猫の保護活動を行う団体や飼い主のいない猫に避妊去勢手術を行う方への補助などを実施しています。

動物愛護推進事業
寄附金充当額 25千円

21 高齢者等を犯罪から守るため個別訪問等を行っています



県内の振り込め詐欺等の被害者、交通事故死者に占める65歳以上の方の割合は約6割を占めています。

熊本県警では、主に高齢者を対象に、平成28年以後、約65,000件の個別訪問、交通安全教育等を行っています。

くまもとの「まち」と「ひと」を守る
声掛け安心実現事業
寄附金充当額 65,000千円

20 外来植物を除去し、 河川環境を保護します



特定外来生物スパルティナ属
防除対策事業
寄附金充当額 7,500千円

国内で熊本だけに生育している特定外来生物「スパルティナ属(和名:ヒダカアシ)」。繁殖力が強く、放置すると河川が陸地化して河川の機能が落ちたり、ゴミが絡まって溜まったりするほか、漁業への被害も懸念されます。これ以上、有明海沿岸の河川に広がらないよう防除するとともに、モニタリングを継続します。



22 生活上のトラブルに関する生活安全相談を行っています



県内警察署に警察安全相談員を配置し、地域住民からの相談に応じています。相談内容はDVや騒音苦情、金銭トラブルなど多岐にわたりますが、適切な機関への引継ぎ、当事者双方の協議の場を設けるなど、問題解決が図られるよう取り組んでいます。

安全で安心なまちづくり事業費のうち
警察安全相談員の設置
寄附金充当額 28,000千円

23 経済的な事情で大学等への進学が困難な生徒を支援しています



意欲と能力があるにもかかわらず、経済的理由により大学等への進学を断念せざる得ない状況を防ぐため、一定の要件に該当する高校生等に対して、入学時の受験料及び入学金相当額の奨学金を給付しています。

大学等進学のための応援奨学金
寄附金充当額 135,000千円

24 高校再編により通学が困難になった生徒を支援しています



高等学校の再編整備に伴い通学が著しく困難になった生徒を対象にして、保護者団体が実施する通学バス等の運行経費等に対して補助するほか、地元自治体を通じてバス事業者への運行補助を行っています。

通学支援事業
寄附金充当額 142,000千円

25 小学校5年生を環境教育のために水俣市に派遣しています



県内すべての小学5年生が水俣市を訪問し、公害被害から環境再生へと立ち上がった水俣の姿を通して、環境問題、人権問題について学習しています。参加人数は今年度の予定も含め約11万人にのぼります。学習後、子ども達は学んだことを学級新聞にまとめたり、劇にしたりして、家庭や地域に発信しています。

日本一の環境教育
「水俣に学ぶ肥後っ子」推進事業
寄附金充当額 24,000千円

26 医療的ケアが必要な児童生徒に看護師を配置しています



医療的ケア(略痰吸引や経管栄養等)の必要な児童生徒が、安全で安心して学べるよう、県立特別支援学校7校に医療機関から看護師を配置して、医療的ケアを実施しています。このことで、児童生徒が安心して学校生活を楽しく過ごすことができるとともに、保護者の休息を確保することもできています。

ほほえみスクールライフ支援事業
寄附金充当額 36,000千円

27 教職員の発達障がいへの対応力を高めています



発達障がいをはじめとする様々な教育的支援を必要とする児童生徒の確かな学びを保障するため、教員への特別支援教育に関する研修の実施や、高等学校への特別支援教育支援員の配置を行っています。この取組みにより、児童生徒が安心して学校に通い、大学進学にも挑戦できる環境づくりができています。

発達障がい等支援事業
寄附金充当額 21,000千円

くまモン応援分

「くまモン隊」の活動を支えていただいています



九州新幹線全線開業をきっかけに誕生した熊本県のPRキャラクター「くまモン」。「くまモン隊」の年間出動回数は約2,500回に上ります。県内のみならず県外、海外にも出動していますが、熊本地震後は特に県内での活動を大切に、被災した県民に寄り添っています。

くまモン隊管理運営事業
寄附金充当額 20,992千円



国際スポーツ大会応援分

熊本で開催される様々な国際スポーツ大会の運営のために使わせていただきます



2019年に女子ハンドボール世界選手権大会、ラグビーワールドカップが開催されます。これらの大会や、翌年に開催される東京オリンピック・パラリンピックの事前キャンプ地誘致などを通じて、熊本地震から復興する姿や多くの支援に対する感謝の気持ちを発信できるよう、県をあげて準備を進めています。

2019女子ハンドボール世界選手権大会推進事業等
寄附金充当額 45,717千円



夢教育応援分

高等学校等に寄附金を交付しました



夢教育応援事業
寄附金充当額 38,902千円

学校等を指定して行われた寄附については、寄附金の2分の1を、指定された学校等にお渡します。寄附金は、各学校等で図書や運動用具を購入するなど、有効に使われています。

海外大学への進学等を支援しています



熊本時習館チャレンジ推進事業
寄附金充当額 17,816千円

海外大学を目指す生徒等を支援するため、「海外チャレンジ塾」や進学・留学説明会を開催するほか、生徒への留学支援金を交付するなど、グローバル人材育成に取り組んでいます。平成30年度は、110名の生徒が海外チャレンジ塾で学んでいます。

生活保護世帯からの大学進学等を支援しています



夢応援進学資金給付事業
寄附金充当額 1,500千円

貧困の連鎖を断ち切り、生活保護世帯の子どもの自立に役立てていただくため、生活保護世帯から大学・短期大学に進学する際に、返還する必要がない給付金を支給しています。平成30年度は4人に支給しました。

私立幼稚園が子育て世帯を支える取組みを支援



私立幼稚園子育て支援事業
寄附金充当額 12,517千円

少子化・核家族化などにより子育て支援のニーズが高まる中、私立幼稚園がもつ機能を活かし、休業日等の預かり保育や、地域向けに子育て相談・各種講座等を開催する幼稚園を支援しています。平成29年度は合計38園に補助を行いました。